



THE SERVICE CLUB OF THE YMCA  
 AFFILIATED WITH THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y' S MEN' S CLUB

# The Y's Men's Club of Kanazawa

CHARTERED JULY 9, 1947

c/o KANAZAWA YMCA 44-1-201 SATOMI-CHO KANAZAWA 920-0998 JAPAN

国際会長主題	「より良い明日のために今日を築く」 “Building today for a better tomorrow”
アジア地域会長主題	「アクション！」 “Action!”
西日本区理事主題	「風となれ、ひかりとなれ」
中部部長主題	「輪を広げ 明るく楽しく 元気よく YMCAとともに」
金沢クラブ会長主題	「愛し合い 助け合い 楽しい仲間づくり！ ～YMCAとEMC活動の充実を～」

## 2019 9 月間強調

## Menettes

### 今月の聖句 (数澤淑子さん)

必要なことはただひとつだけである。

ルカによる福音書 10 章 42 節

### 8 月強調月間

愛(他者への思いやり)を行動へ!

そして、ワイズダムへ心地よい風を送りましょう!

大野 勉 メネット事業主任

(神戸ポートクラブ)

### 9 月例会 プログラム

と き 2019 年 9 月 19 日 (Thu.) 18:30~20:30

と ころ 金沢ニューグランドホテル

会 費 ¥3,000(会員は無料) ¥2,000 円(メネット)

司 会 伊藤悦子さん

開 会 ・ 点 鐘 数澤淑子メネット会長

主 題 司 会 者

ワイズソング 一 同

今月の聖句 数澤淑子メネット会長

ハッピーバースデー 山内ミハル会長

ゲスト紹介 山内ミハル会長

食前の感謝 山内ミハル会長

スピーチ 山本浩一郎氏

“中世イタリア・キリスト教美術を訪ねて”

委員会報告 各 委 員

ニコニコタイム 北 佳子さん

YMCA の 歌 一 同

閉 会 ・ 点 鐘 数澤淑子メネット会長

### 8 月 クラブ活動状況

#### 第 1 例会 (8 月 15 日 Thu.)

メ ン : 朝倉、伊藤、数澤、北、幸正、西、山内 (7 名)

メキップ : 吉川 (1 名)

出席率 100% 充足率 175%

メネット : 朝倉、伊藤、数澤 (3 名)

ゲスト : 北村さん、北村君、福永将大氏 (3 名)

#### 第 2 例会 (8 月 1 日 Thu.)

メ ン : 朝倉、伊藤、数澤、北、幸正、山内 (6 名)

メネット : 朝倉 (1 名)

#### ニコニコタイム

10,000 円

#### クラブファンド

累計 175,000 円

#### BFポイント

切手 250 g 累計 2,210 g

現金 0 円 累計 0 円

会 長	山内ミハル	書 記	西 信之
直前会長	幸正一誠	会 計	朝倉みゆき
副 会 長	数澤輝夫	メネット会長	数澤淑子
	伊藤仁信	メネット会計	伊藤悦子

第一例会 : 毎月第三木曜日 18:30~20:30

金沢ニューグランドホテル Tel (076)233-1311

第二例会 : 毎月 1 日 18:30~20:00

金沢ニューグランドホテル 2F (トレド)

## 天皇の権威はいつ頃確立されたか。

西 信之

平成から令和に代わり、日本では天皇の即位に伴って多くの人が、この権威はいつ頃から続いているのかと思ったことだろう。また、新しく「百舌鳥・古市古墳群」が世界遺産に認定され、このような巨大な古墳がいつ頃何の為に築造されたのかという疑問も持たれた方が多いのではないだろうか。実は、前方後円墳の築造と天皇の権威の確立には、深い関係がある。また、伊勢神宮は天皇家と深い関係にあるが、太陽神である天照大神を祀っており外宮には天照大神の食事の世話をする豊受大神が祀られている。巨大古墳と伊勢神宮は、天皇家の権威の確立に深く関わっている。

巨大前方後円墳の最初のもは、巻向にある箸墓であり、3世紀の中頃に作られ、中国の記録にある卑弥呼の死亡時期や墓の大きさとはほぼ一致する。その後に出てきたのが西殿塚古墳で3世紀の後半に、これらの古墳の中間点にあるのが崇神天皇陵で、4世紀前半に築造されている。このような巨大古墳の築造にどれくらいどのような人間が動員されたのかを探るためには、これら女王や大王が如何に大きな富を持っていたかを知る必要がある。卑弥呼は、魏に使者を送り、親魏倭王という称号を受けているが、この頃新羅に倭国がしばしば攻め入っているという記述が朝鮮の三国史記

(新羅本記) にあり、卑弥呼の倭が朝鮮半島南部に拠点を持っていたことが判る。魏に使者を送り朝鮮半島の南部に拠点を有することは、既に自由に航海できる技術と貿易による富の集積が必要であった。

九州の伊都国は朝鮮や中国との貿易の基地であり、ここに女王がいた。平原古墳からは「内行花文八葉鏡(八咫鏡)」が4面、他の銅鏡が36面出土している。この内行花文八葉鏡直径が46.5cmであり女王はこの鏡を使って鬼道を行っている。大和に突然現れた高齢の女王卑弥呼は、この伊都国の女王が移って来た可能性が高い。この銅鏡を使った鬼道によって政治を行い、弟が政治を助けたとある。この大きな鏡に太陽光を反射させ、鏡の裏に刻まれた模様が生み出す不思議な反射光を使って占い政治を行っている。卑弥呼は朝鮮や中国との交易によって富を築いているが、その死後に築かれた箸墓には100余名の奴卑が殉葬されているし、魏にも生口(奴隷)を献上している。これらの奴卑が朝鮮に侵攻した時の捕虜か倭国内の被征服民かは不明だが、古墳も多くは奴卑によって築かれた可能性が高い。殉葬された100余名の奴卑が墳墓を作ったことも十分にありえる。

卑弥呼の死後に、その身の回りの世話、特に食事の世話をしていた登與が後を継ぐことになるが、登與の墓が西殿塚古墳であり、その間にあるのが崇神天皇の陵である。ここからも、大きな銅板が出土しており内行花文八葉の文様が印されていた。崇神天皇が卑弥呼や登與を動かしていたと考えられる。崇神天皇は大和川の上流で山辺の道の南端の船着き場に近い磯城瑞籬宮(しきのみずかきのみや)に宮殿を建てたが、この近くに大和川の船着き場があり、ここからは大型船が発着し、多くの物資のみならず中国や朝鮮からの人の往来に便利があった。この港には、中国からの仏教伝来の地の碑が建っている。ここから5km東に丹生神社があり、この一帯から三重県にかけて水銀脈がある。水銀はイオウと化合させて朱の製造に使われ、金を表面に張り付ける鍍金にも必要な液体金属で、崇神天皇はこれを重要な輸出品として富を築いたと思われる。このような富と巨大古墳の築造によって天皇家は多くの豪族を従えた。

伊勢神宮は内宮に天照大神を祀り「内行花文八葉鏡(八咫鏡)」をご神体としている。明らかに卑弥呼を祀っている。崇神天皇は卑弥呼の箸墓を築造し、卑弥呼を神格化して最初大和に神宮を建てたが、子の垂仁天皇によって現在の伊勢に移された。金属加工の技術や交易を行うすべを知っていた崇神天皇が伊都から来たのか、それとも伊都を経由して別の場所から大和に移って権力の基盤を築いたかは良く判っていない。

天皇という呼び名は天武天皇の時代に中国の道教の思想に基づいて導入された。現在の天皇は継体朝で、崇神天皇から5世代を三輪朝、応神天皇から5世代を河内朝とも呼ぶ。世界遺産「百舌鳥・古市古墳群」は、河内朝の大王の墓である。



内行花文八葉鏡(八咫鏡)



大和川の船着き場

## 【第二例会の報告】

日時：8月1日(木)8:30~9:00

場所：金沢ニューグランドホテル トレド

出席者：朝倉、伊藤、数澤、北、幸正、  
山内

朝倉ワイズによる聖書朗読・祈祷の後、食事をとり、  
下記について協議した。

### ①夏季特別例会

8/4に予定していた羽咋での特別例会は都合により中止とする。

### ②YMCA活動への支援

金沢青年会議所からの要請により、ひとり親家庭の子どもたちのためのデイ・キャンプに協力することになった。今のところ金沢クラブから9名、YMCAから1名、学生3名が決定。8/8に下見をかねて、飯盒炊爨の予行を行うことを決定。持ち物・遊具等担当を決定。

### ③献金について

昨年まで1月、2月にまとめて集金していたが、金額が大きくなるので、今期は9月~1月に分けて集金することを決定。

### ④第二例会の会場について

金沢ニューグランドホテルが改修を行うため、10月と11月は3階の中華料理「犀江」で行うことを決定。

### ⑤澁谷ワイズについて

体調を崩され、7月30日に入院された。  
(報告 山内ミハル)

## 【8月例会報告】

毎年、8月例会はお盆に当たるため、子弟の帰省や親族の集まりがあったりして出席しにくい方もあるようです。今月は北村さん母子の他に、金沢高等裁判所で司法修士生として研修中の福永将大君が参加してくださいました。彼は米子クラブの福永ワイズのご子息です。2017-2018期、私が中部部長の時福永ワイズは瀬戸山陰部の部長で、親しく交わらせていただいたことから、将大君が金沢に来られたことの連絡を受け、一度お誘いしたいとの願いが実現したのです。感謝です。

卓話は西ワイズが担当してくださいました。卓話内容については、巻頭言をかねて執筆して頂きました。  
(文責 山内ミハル)



## ~~~~~お知らせ~~~~~

### ☆第23回 中部部会、第24回 びわこ部会

2019年9月7日(びわこ部)、8日(中部)に参加します。

参加予定：朝倉、伊藤夫妻、数澤夫妻、北、山内、  
吉川

びわこ部会終了後、滋賀蒲生野クラブとのDBC交流会が計画されています。

### ☆YMCAわいわい農園協力金を集めます

一人 2,000円です。

### ☆CS献金を集めます

CS献金 1,000円を集めます。

## ~~~~~YMCAからのお知らせ~~~~~

### ☆「ソトゴハン」に協力

報告 YMCA 理事長 朝倉 秀之

5月、金沢青年会議所から電話があり、市内のひとり親家庭の支援の為、デイキャンプを計画したいので、協力してほしいとの依頼であった。

会の名称は「ソトゴハン」と称し、JC、YMCA、もう一つの支援団体であるシングルマザーの会から代表者が出て、6月に3回、7月に2回の打ち合わせを行いました。それぞれの役割分担を決め、現地視察・調査も行った。

活動内容は一人親家庭の親子30組を招待、会費は無料とし、火起こし体験と飯盒炊爨、カレーライスづくりで、野外活動の楽しさを経験してもらうものであった。

8月に入って、現地医王山スポーツセンターアウトドアクッキング村で、金沢YMCAのメンバーだけで事前実習をした。ボランティアで参加を申し出てくれた大

学生5名にも、後日、飯盒炊爨の実習をしてもらった。8月25日(日)「ソトゴハン」の当日、スタッフは8時集合、軽く打ち合わせをして、それぞれの持ち場に散った。開会式は9時15分、医王山スポーツセンターの3階で子どもたち家族を迎えて始まった。グループ別に分かれてオリエンテーションを終え、それから山道を歩き、クッキング村に着いた。先ず子どもたちは火起こしを学び、そこから炊事場へ移動して、涙をながしながらタマネギの皮をむいたり、ニンジンやジャガイモを切ったり、飯盒で米をといだりした。肉や野菜を炒めてカレーを作った。それから食事会となった。美味しい、美味しいと声を上げながら食事をした。奈良から参加の藤井辰男 YMCA 会員のギターに合わせて皆で楽しく歌を歌った。

食事の終わった者から、大学生たちとボール遊び、ミニ バドミントン、シャボン玉遊び等に興じていた。食事の量が不足で、J C の何人かが食事抜きとなったのは気の毒であった。

全員で後片付けを終え、YMCAは解散。その後、



## × ネット 報



### 高山右近の隠れ寺

「きょうは久しぶりに予定入っていないが何処か行くか？」と朝倉が言いました。

「うん！能登に行ってみよう！」そんな会話で出掛ける事が決まりました。

能登に向かって走ると七尾には 12 時過ぎに到着しました。お昼ご飯を済ませて

「それで行きたい所は？」「本行寺ってお寺、NHKテレビで見たの。隠れキリシタンのお寺」「行こう！」直ぐにナビに七尾市小島町リー134と入れると、どうも近いらしい。

七尾駅から輪島駅に繋がる線路を渡り、山の坂道を進むと車一台通れるぐらいの道だった。

いくつものお寺に囲まれたようにして目的地はあった。

本行寺駐車場と書いてある所に駐車し、坂道を歩いて上り、古い門をくぐると、誰もいない玄関に御用のお方は…との札が見えた。中から「しばらくお待ちください」と声があった。

「こんにちは、予約していませんが見学出来ますか？」「分かりました。こちらは門徒のいない寺で志納金としてお願いできますか」「はい」「まずこちらへ」案内されたのは境内の石塔でした。150 cmの私の背の倍ぐらいの高さの石塔です。隠れキリシタンが密かに信仰したゼウスの塔、住職のお話しでは隠れキリシタンに

とっては本行寺は聖地の様な場所だったのではないかと

子どもたちはJ Cの人たちとカブトムシ獲りにでかけ、残った母親たちはそれぞれの悩みや感想を話し合っていた。出席を要請され、同席していた山内ミハルさん曰く、「母親たちからは“このような会を、次回も是非……”との要望が多かった」とのこと。

怪我もなく、「ソトゴハン」を無事に終えることができ感謝であった。

Happy Birthday

朝倉 秀之君 9月27日

### 10月の担当

聖句担当：西 信之君  
ブリテン執筆：数澤 輝夫君  
澁谷 節子さん

と話されました。本堂へ入ると、隠れキリシタンが祈りを捧げたであろう仏像の合わせた手の奥には十字架がありました。

高山右近は身を潜めながら本行寺で宣教を続け、宗教弾圧の中にあっても信仰を守り貫いた人であった。一昨年、高山右近が福者に選ばれたことや、去年は長崎や天草が世界文化遺産に登録された大きなニュースが続きました。世界文化遺産の資料には、本行寺からの重要な働きが大きかったようでした。

沢山の秘蔵品の解説は、十回は聞かないと覚えられないと思いました。

でっかいロマンの歴史を感じながら、高山右近が長い歴史を経て福者になったことを喜ぶ一人となれた思いで本行寺を後にしました。

(朝倉みゆき 記)

